

## これまでの分科会での主な意見（重点戦略課題別）

重点戦略課題	現状・課題の認識	取組みに向けての意見
魅力あふれる地域づくりの推進	地域の住民の交流を広げたり、ふれあいを深めるための場や機会が不足している	地域の公共施設などを活用して、誰でも気軽に集まり、交流し、ふれあいを深める場（地域の居場所）をつくる 地域の公共施設をNPOや市民団体の活動スペース、交流スペース、広報スペースとして有効に活用する
	行政に頼るのではなく、自分たちの地域は自分たちで守り育てるという意識や行動が不足している	地域の空家等を利用して、住民の交流拠点をつくり、様々な地域活動（交流、防災、環境維持など）を実践する 様々な活動を実践しているNPOや市民団体と、町内会などの地域団体との連携・協力的体制づくりを進める
	地域でさまざまな活動を行っている市民団体やグループの横のつながりが不十分である	子育て相談、総合学習、ボランティア研修、障がい者支援などのふれあい活動をつなげる拠点をつくる 行政と市民が協力し、「バリアフリー公園とふれあいの拠点づくり」を展開するための仕組みづくりを進める
	地域住民の様々な交流やふれあい活動をサポートする人材やコーディネーターの確保が課題である	NPOなどが中心となり、若者や高齢者が活動に参加する仕組みや、コーディネーターを養成する仕組みをつくる ITを活用して、住民活動を支援するコーディネーターや専門家、行政機関などを結ぶネットワークづくりを行う
少子化対策の推進	孤立している母親や子どもたちを地域で支えていく工夫や仕組みづくりが課題である	子育て家庭等のニーズを社会資源やサービスに円滑に結びつけるための情報提供・相談機能の充実を図る 身近なところで、様々な情報を得たり、よろず相談ができる場をつくる
	市の児童クラブの利用が無料であるのに比べ、民間の学童保育所を利用する親の負担が重くなっている	行政と民間がバラバラに動くのではなく、民間の取組みを活かしながら地域の学童保育を運営する仕組みをつくる 市が設置する児童クラブと民間の学童保育所との連携・協力的体制づくりを地域レベルで進める
	働く親にとって、子どもが病気などのときのサポートが不足している	子どもが病気になったときの保育体制を整える 医療機関との連携・協力により、「こどもデイサービスセンター」の機能・サービスを拡充する
地域での高齢者・障がい者の自立支援の促進	障がいのある子どもたちの多くは地域から隔絶されて暮らしているのが現状である	地域住民が障がいのある子どもたちとのふれあいを深め、地域での暮らしや活動を支えるための取組みを広げる 市民による障がいのある子どもを支援する実践活動を地域に浸透し、参加を広げるための仕組みづくりを進める
	障がい者への情報提供や相談がきめ細かに行われておらず、ニーズが十分把握されていない	障がい者への情報提供、相談、問題解決、支援をしっかりとサポートする実践的な仕組みとネットワークを整える 視覚障がい者や知的障がい者をはじめ、障がい者への広報や相談のための手段をきめ細かに行う
	障がい者・高齢者が地域で暮らしつづけていくための住宅やケアサービスなどが十分ではない。	障がい者・高齢者が地域で安心して暮らせる共同住宅やデイサービス、ボランティアなどを充実する グループホームの開設を促進する制度や、障がい者・高齢者・乳幼児を総合的にケアする仕組みづくりを進める
地域での健康づくりの推進	元気な人たちの健康維持だけでなく、慢性疾患や成人病などを抱える人たちの健康回復をサポートすることも課題である	健康づくりに取組む市民組織と行政、医療機関が連携し、地域レベルでの取組みを広げる 地域の健康づくりを促進するための情報提供、相談機能、活動の場、人材などを充実する
	食生活の乱れ、高い喫煙率、性感染症の増加、人工妊娠中絶率の上昇など若年層の健康問題は深刻化している	子どもたちの健康を守るために、専門機関、学校、地域が連携して取組む 専門家と学校が協力して、小学生の段階から健康教育や性教育などのプログラムを充実する
	国民健康保険料が未払いのために医療を受けられないということが全国的に問題になっている	誰もが安心して医療を受けられる仕組みをつくる 国民健康保険料の料率が高くなっている市民層の負担を軽減する方策を検討する